

城原川だより 68号 城原川を考える会

【ダムに拠らない治水をめざすには】

2017 11. 16(木)

次回発行予定 2017 12月 11日



筑水研の40周年記念シンポジウムに参加

10月21日、筑水研のシンポジウムに参加してきました。1978年9月に発足したこの会は40年にわたって様々な水問題を、研究し提言してきました。会は研究者にとどまらず、農民、漁民、法曹関係者、自治体労働者など様々な生活の場面からものを考える方々で構成されています。

講演の中で40年の歩みが紹介されていましたが、特に印象深かったのは、近年の巨大公共事業が計画されたおおもとの歴史的事情でした。

講演の一部をシンポジウムの資料より抜粋して紹介してみます。

暮らしと水を考えて～筑水研40年の活動から～

蔦川 正義 ・ 筑後川水問題研究会会長

水不足

(日本の高度経済成長期) 1960～1970年代、工業生産の拡大と都市化、により、水不足が心配されていた。

経済を成長させるためには水が不可欠であり水資源開発が急がれた。1961年に水系を指定して開発促進する「水資源開発促進法」が制定され、64年には筑後川も開発水系に指定され、九州財界、国と県の行政機関が動き始めた。彼らにとって「地域開発＝企業誘致」という言葉は日常的な挨拶言葉にさえなっていた。とくに九州北部は産業基盤整備が遅れていて、水がたりない地域とされた。地域開発の名のもとに、周防灘埋め立て計画などの壮大な計画が立案され、それに伴う水不足を解消するため各地にダムや堰、等の建設が計画され、有明海淡水湖化構想や大淀川の水を球磨川に落とし高速道路の高架下を伝って北九州へ持って行くなど、信じられないような計画が、まじめに進められていた。

筑後川ではそのころどのような問題が起こっていたか

川の汚染がひどくなり、ホテイアオイが水面を埋め尽くし、絶滅したはずの宮入貝(日本住血吸虫の中間宿主)が大量に発見されている。そのようななか、水を確保するために、地方レベルではない、国家的レベルでの水資源開発が筑後川に押し寄せてきていた。

1978年5月「福岡大渇水」がおこり、水問題が水不足問題として広く注目され、その結果、取水中心の水資源開発の必要性が声高に叫ばれ、ダム、堰などを建設することが

当然という世論が生まれた。

水資源開発とは

本来、水資源開発は「取水中心」のダム、堰、浄水場、送水・配水施設作りではなく、水循環を重視した地域性を考え、「郷土の暮らし」という視点が重要だ。地域の個性をしつかりつかみ、地域住民の知恵や協同性を知り、地域民主主義を大切にしなければならない。

というようなお話がありました。

これらのことを城原川に当てはめてみると

城原川にダムをといる最初の計画は、昭和27年脊振の広滝地区に脊振ダムを造ろうという県の計画が最初ですが、高度経済成長期より10年ほど前のことです。これは地元の強い反対で消えました。しかし、その11年後、上記の64年筑後川が開発水系に指定され財界や行政が地域開発に強い意志をもった同じ年に腹巻ダムが計画されました。しかしそれも立ち消えとなり、1965年以降、昭和40年代になって国は新たにダム計画を発表したのです。まさに、城原川ダムは、高度経済成長期の取水事業だったことがわかります。

10月定例会の報告

10月20日神崎市中央公民館において第105回城原川を考える会 定例会を開催しました。県の砂防課からも2名の参加がありました。

配布資料は 城原川だより67号 ・水郷水都会議企画案・羽野文書（H29 10/10作成）

◎ 報告事項

- T 環境推進委員の講演会報告
地球温暖化についての講演
Tさんの感想では「温暖化の原因はCO2だけではないと思う」

- O 10/7 日本建築学会建築文化週間2017シンポジウム
「クリークのまち再発見」の講演の中で、石川初慶応義塾大教授の「地形へのアプローチ」を紹介
DEM（デジタル標高モデル）とKashmir 3Dにより地形図の作り方が変わった。10cmの差を表示できる精度がある。ネットで無料でつかえる。

2年ぶりに城原川だより作成

中身を全員で精査して、間違い等を指摘してもらった。この時、県の考えかたの修正が行われた。広松技監がかつて、霞堤と野越のほとんどは県の区間、これらは活かして超過洪水対策に使う。とおっしゃっていたが、これは広松技監の個人的な意見ということで、県はまだ勉強中であ

り、そのあたりを模索中と言う記述に変更。

ここから霞堤、野越の問題が話し合われた。

- O これらを活用するにはいくつかの問題がある。一つは野越の高さ、次にそこから越流した水の行く先 また今の異常気象下での雨量の検討。野越はかつての高さより1、5m嵩上げされている。その高さでは土手の能力を越えてしまう。現にH21年、の洪水では450m³/sの流量が流れ、そのうち20m³/sが野越から流れた。下流は破堤寸前だった。もし野越の高さが昔どおりでもっと多くの水が越水できていたなら下流はそういうことにはならなかった、と考えられる。
- S 越水した水の行方も重要だ。かつての水道（みずみち）が今も有効か、洪水の行く先に危険な場所はないのか、等しっかり把握する必要がある。
- O これらのことに関しては地域の合意形成が大事になってくる。そのためにも、越水した場合のシミュレーションをやらなければならない。県にはそのことを地元大学と提携してやってほしい。
- 県 霞堤や野越は県区間に多いので、いずれどうするかは検討しなければならないことは間違いない。

キャラクターについて

会員の方から城原川だよりに使われているキャラクターはどういうものなのか？という質問がありました。

城原川を考える会の象徴的なキャラクターが欲しいということで、千代田町のお話会「ケムケム」が上演した「脊振の弁じゃ様と親不孝ガエル」のときの弁じゃあ様に扮した永原さんという方の写真をもとに、佐賀テレビの田中さんのご尽力でイラストレーターの方に描いていただいた。

城原川だより 17号 H23. 8. 25から登場。17号を一部転載します。

城原川を考える会のキャラクターができました！！
弁じゃあ様、です。



城原川の源流、脊振の頂上に鎮座ましましている大弁財天様を、

当会のキャラクターとして、デザインしていただきました。親しみやすいかわいらしさの中にも、毅然とした意志、を感じ取ることができるキャラクターだと、よろこんでいます。よろしく願いいたします。

こうして17号より登場しました。

◎ 水郷水都会議開催について

T 2018年4月21日（土）～22日（日）朝倉豪雨に学ぶ減災と復興として開催。筑水研が主宰し、考える会は実行委員会に参加してほしい。

S 2019年の水郷水都会議は佐賀開催となります。前回の定例会で来年の筑水研の実行委員会にはいることは決めています。2019年、日本全国に佐賀の魅力を発信するためにも、筑水研での開催は経験を積む上で絶好の機会ととらえています。

出来る限りの協力をすることで合意しました。

月曜勉強会へのお誘い

毎週月曜日には千代田町の福祉センターで10:00～12:00まで勉強会を開いています。参加者は7～8名です。皆さんも気軽にのぞいてみてください。女性の方特に大歓迎です。

第107回定例会12月 11日

10:00～12:00

千代田福祉センター

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神崎市千代田町境原282-12
電話 0952-44-2925
副代表 平田憲一 〒842-0122 神崎市神埼町城原1877-1
電話 0952-52-2827

Mail : teaho74@yahoo.co.jp

ブログ ふるさとの川城原川 [livedoor.jp/ jyubarugawa](http://livedoor.jp/jyubarugawa)

<https://ameblo.jp/jyubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしおよせください。

文責 佐藤悦子